

令和6年度第1回がん診療委員会主催院内研修会

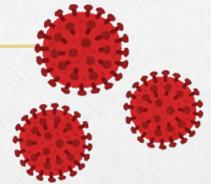
がん患者と
新型コロナウイルス感染症
(COVID-19) について

青森労災病院

感染管理認定看護師

渡辺 季代子

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)



- 原因ウイルス：

重症急性呼吸器症候群コロナウイルス 2 (SARS-CoV-2)

2019年12月 中国・湖北省武漢市で初めて確認

2020年3月 パンデミック状態

2023年5月4日 世界保健機関 (WHO)

国際的に懸念される緊急事態 (PHEIC)の終了を宣言

2023年5月8日 日本では五類感染症に移行

新型コロナウイルスの伝播様式

【潜伏期間】 1～7日(中央値2～3日)

【感染経路】



- ・感染者から1～2m以内の距離で、病原体を含んだ飛沫・エアロゾルを吸入することが主要な経路。
- ・換気が悪い屋内では、感染者から遠い場所でも感染。
- ・ウイルスを含む飛沫や環境表面に触れた手指で粘膜を触ることでも感染。

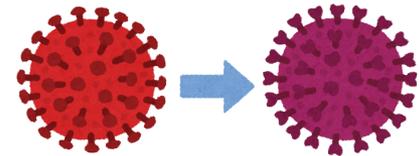
【感染性のある期間】 発症前から発症後5～10日

重症化のリスク

- 最も重要なリスク因子：高齡
- 高齡かつ基礎疾患のある患者：リスクが高い
- 重症化や死亡のリスクが高い：男性 > 女性
- オミクロン流行期（2021年末～2023年5月まで）
死亡例(5549名) の年齡中央値：86歳
死亡例：70歳以上の症例が90%以上
悪性腫瘍の割合が多かった。

新型コロナウイルス流行株の変化

オミクロン株とその亜系統によって流行株が次々と置き換わっている。



<特徴>

- 感染・伝播性が非常に高いが、毒力は低下
- 免疫逃避能（感染免疫・ワクチン・中和抗体薬へ抵抗性）

<症状>

- 咽頭痛、鼻汁・鼻閉、倦怠感、発熱、筋肉痛等これまでと大きな変化はない
- 嗅覚・味覚障害の頻度は減少

基本の感染対策

- 手洗い・手指消毒の徹底
- マスク着用
- 咳エチケット
- 適度な換気
- 体調管理
- ワクチン接種
- 感染源となる病原体に適した消毒薬の使用

患者さんの 手洗い・手指消毒タイミング

- トイレの後
- 食事の準備前後・食事の前後
- 鼻をかんだ・手でくしゃみを覆った後
- 目や鼻、口の中や唇を触る前後
- 感冒症状がある人との接触後
- 公共物の表面に触れた後
(エレベーターのボタンや手すり等)



患者さんが自分の免疫の状態を知る

- がん治療の際は、最も免疫力が低下しているのはいつ頃なのかを医師に確認する

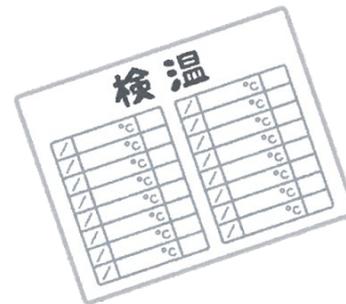
- 免疫が落ちている期間は、

外出を控える

毎日体温を測るなどの体調管理

十分な睡眠をとる

バランスのよい食事を心がける



- 周囲の皆さんの協力も得る

などを教育

ワクチン接種

＜2024年度からのワクチン接種＞

目的：重症者を減らすこと

対象者：65歳以上の高齢者及び一定の基礎疾患等
のある 60歳から64歳までの者

接種回数：年1回

接種タイミング：秋冬



2022年10月から導入のオミクロン対応mRNAワクチンの追加接種は、COVID-19発症や重症化を防ぐ効果が確認されている

まとめ

- 基本的感染対策の「換気」「手洗い・手指消毒」「マスク着用」が有効
- 基本の感染対策の継続が何より大切
- 患者さんが自分の免疫状態を知ること大切
- ワクチン接種は可能な限り接種を推奨
- 感染症の流行状況に興味を持つ